

あなたは他の人と違ってた

木村恵理子
東京都・一六・高校生

あなたがくれた一枚の紙で、私は恋をしたいと思った。

男の子なんて大嫌いだった。バカな事で楽しんだり、女一人相手に十何人がかりだったり。小四から続いた男子のくっだらな態度に慣れた中一の時、あなたと同じクラスになった。

最初は優しそうな人だなあと思ってたけど、別に興味はなかったし、どうせそのうち他の連中と同じ事するんだろう……そうじゃなくても見て見ぬフリをするんだろうなあと思ってた。いつものように男子にからかわれ、ブチ切れた私は、ものすごい言葉と声を彼らにぶつけた。その中で少しビクビクした無言のあなたがいた。

その時は、やっぱり彼も奴らの仲間だって思ってたけど他の人と違ってた。クラスの誰かに良い所を書いて渡すという授業で、あなたはほめてくれたよね。

「何を言われても平気でスゴイね」って。

「言い返せるなんて強いね」って。

嬉しくて温かい気持ちになった。ちゃんと見ていてくれてたのですね。それからあなたを見るようになった。

いつも笑顔で、人望も厚くて、優しくて、人をきちんと真正面から見る事が出来る人だった。

お礼の一言も言わずに卒業し、楽しい高校生活であなたを忘れてた二月頃、地下鉄の階段ですれ違った。なのに「ありがとう」って言えなくて後悔した。

もう一度あなたに会って話したい。あなたを思い出すと温かくて優しい気持ちでいっぱいになるって言いたい！ だけどきつと言えないから、この場をかりて文にして伝えます。

ありがとう。本っ当に嬉しかったです。